

◆ 広島電鉄株(No.22 爆心地から 1.9 km)

中区東千田町 2 丁目 9 番 29 号

木造の本社屋、修理工場、車庫等倒壊しその下敷きとなって多くの職員が犠牲となった。

3 日後の 8 月 9 日(木)残った職員の懸命の頑張りにより、己斐～西天満町間を走らせました。動き始めた電車の姿は、うちひしがれた市民の気持ちを大いにカブけたそうです。

この事は後に『一番電車が走った』のタイトルで放映されました。

また一番電車の車掌を努めた、赤松春野さんの著書も・

・ 参考

被爆電車 651・652・653 が今も現役で頑張っています。



◆ 御幸橋(No.30 爆心地から 2.3 km)

中区千田町 3 丁目地先

多くの被災者が御幸橋西詰めの警察官派出所に群がり、わずかばかりの応急手当を受けている様子

撮影(8/6AM11 時頃)は中国新聞報道カメラマン松重美人さんの『なみだのファインダー』の 1 枚

被写体には、河内光子さん(セーラー服姿)、光子さんの父、坪井直さん等



中国新聞
デジタル
いますぐ無料登録

時代をめぐる、
被爆樹めぐり。

もっと知ってください。[被爆樹木]のこと。
「緑」の伝言プロジェクト4面をご覧ください。
www.green-greetings.com

天風録

「月火水木金」の戦時中だから平日も休日もない。それでも週1度の朝礼は、月曜の始業前と決めていた銀行があつた。そうして出勤を急ぐ行員たちの頭上にも容赦なく、閃光と熱線、放射線と爆風が襲いかかる▲74年前のきょう、気分を一新する週初めの月曜、しかも町の真ん中に人々が集まり始めた午前8時15分、米軍は原爆を投下した。市民を狙った無差別空爆は、たとえ原爆でなかったとしても、到底許されるはずはない▲ところが長い間、米國を憎んでも体験を一切話そうとしない被爆者の何と多かつたことか。九死に一生を得た喜びよりも、大切な人を失くし、自分だけが生き残った。そんな自分自身を責め続けた▲ある12歳の中学生は腹痛のため建物疎開作業を休んだが、爆心地近くの現場に向かった級友全員を原爆に奪われた。「親しかった友の両親の顔を見るのも見られるのも、つらかった」。いたたまれず、退学してしまう▲その被爆者は30年以上たつて、証言活動が「後ろめたさを克服する一つの道」と気付き、体験を語り始めたそう。そうした万感の思いがこもる記憶の数々を、この町は受け継いできた。もちろん、あすからも、休むことなく。

2019・8・6

昨年 7 月 27 日の慰霊祭での語り部として、当町内に会社があり町内会員のトミックス株の会長中村富洋さんにお話しいただきました。すると、8 月 6 日の中国新聞にお話しに似た記事に出会いびっくりです。

後日、中村さんにお尋ねすると、「NHK で話したこともあるので、ひょっとすると」とのことでした。

中村さんのお話は、町内のホームページに掲載しています。(千田町一丁目町内会で検索)